

参加申込方法

Art Meets Care
2011

以下の手順で手続きをお願いいたします。

1. 参加費をご入金ください。
郵便局の郵便振替をご利用ください。払込用紙の通信欄に「振込内容(内訳)」をご記入ください。払込用紙の受領票をもって領収証に代えさせていただきます。振込手数料はご負担願います。
2. 下記の申し込みフォームに必要事項をご記入のうえ、学会事務局までE-mailまたはFaxにてお申し込みください。ウェブ上でも受け付けております。
3. お申し込み完了となります。当日は受付でお名前をお知らせください。

口座記号・番号 00920-4-252135 加入者名 アートミーツケア学会

申し込み期限 **11月18日(金)** 定員 180名に成り次第、締め切ります。

- * 定員のあるツアーやワークショップも定員になり次第、締め切ります。
- * いったんご入金いただいた参加費は、原則としてご返金いたしかねます。また、新型インフルエンザ等の影響で大会を中止させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承ください。

参加費	一般(学会員)	学生(学会員)
両日	4,000(3,000)円	2,000円(1,500)円
交流会	2,000円	2,000円
スタディツアー	2,000(1,500)円	1,500(1,000)円

お申し込み
お問い合わせ

アートミーツケア学会(事務局)
〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4 財団法人たんぼぼの家内
TEL.0742-43-7055 / FAX.0742-49-5501
E-mail.art-care@popo.or.jp http://popo.or.jp/artmeetscare/

会場案内

京都造形芸術大学
瓜生山キャンパス
ギャラリー・オーブ
京都市左京区北白川
瓜生山2-116

JR「京都駅」より
市バス5系統/岩倉行「上終町
京都造形芸大前」下車(約50分)

地下鉄「北大路駅」(北大路駅バス
ターミナル)より
市バス204系統循環「上終町京都
造形芸大前」下車(約15分)
(※地下鉄北大路駅へはJR京都駅
より約15分)

京阪「出町柳駅」より
市バス上終町3系統/上終町京都
造形芸大前行「上終町京都造形
芸大前」下車(約15分) 叡山電車
(京阪出町柳駅乗りかえ)
茶山駅下車、徒歩約10分

阪急「河原町駅」より
市バス5系統/岩倉行「上終町
京都造形芸大前」下車(約30分)
市バス上終町3系統/上終町
京都造形芸大前行「上終町京都
造形芸大前」下車(約30分)



アートミーツケア学会 2011年度総会・大会

「こども」から考える ケアとアート

大震災を経て

スタディツアー 大会
11月25日(金) 26日(土) 27日(日)

京都造形芸術大学京都・瓜生山キャンパス
京都市左京区北白川瓜生山2-116

申し込みフォーム

FAX ▶ 0742-49-5501

ふりがな
名前 所属(よろしければ、活動先・活動内容などをお書きください。
特になければ記入不要です)

住所(□ご自宅/□勤務先等)
〒

TEL(□自宅/□勤務先等)

FAX(□自宅/□勤務先等)

Eメール(□自宅/□勤務先等)

参加区分
一般観会員 一般会員 学生未会員 学生会員

参加日程
25日スタディツアー 26日 27日 26日交流会

分科会の選択希望(各分科会定員50名)

第1希望……分科会A 分科会B 分科会C 分科会D

第2希望……分科会A 分科会B 分科会C 分科会D

■個人情報は本大会の受付においてのみ使用いたします。

主催：アートミーツケア学会 共催：京都造形芸術大学 協力：日本ボランティア学会

PROGRAMME ART MEETS CARE 2011 IN KYOTO

受付場所：京都府立医科大学付属病院正面玄関

NOVEMBER	
25 FRI	14:00-17:00 スタディツアー
	定員 30名(先着順・要申し込み)
	集合時間 13:45
	終了時間 17:00(予定)

スタディツアー	
ツアー先	京都府立医科大学小児医療センター 京都大学総合博物館 「Inclusive Design Now 2011」展

アートとケアの関わりを体感し、考えることを目的に、2つの場所をめぐる。

京都府立医科大学小児医療センター（府こども病院）では、京都造形芸術大学とNPO法人アーツプロジェクトとの三者共同プロジェクトが行われています。病院をより魅力的な空間にすることを目指し制作された壁画などを見学し、ホスピタルアートの実践を学びます。

また、京都大学総合博物館で開催中の「Inclusive Design Now 2011」を観覧します。本展ではユーザーとともに実施するリサーチプロセスの公開・共有をとおし、社会包摂を目指すインクルーシブデザインの多様性を学ぶことができます。

案内人	柗 伸江(みっくすさいだー代表、京都聖母女学院短期大学非常勤講師) 渡邊あい子(立命館大学大学院先端総合学術研究科博士後期課程、 佛敎大学非常勤講師)
-----	---

進行	本間直樹(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)
----	---------------------------------

発表者	関口怜子(ハート&アート空間Bel代表) 高橋伸行(やさしい美術プロジェクトディレクター、名古屋造形大学准教授)
-----	---

聞き手	森口ゆたか(美術家、NPO法人アーツプロジェクト代表)
-----	-----------------------------

ファシリテーター	水野哲雄(京都造形芸術大学芸術学部こども芸術学科教授)
----------	-----------------------------

アートミーツケア学会2011年度総会・大会

絵：清野晃大(ハート&アート空間Bel) 言葉のちからプロジェクトよりhttp://popo.or.jp/wataboshi_project/

受付場所：京都造形芸術 瓜生山キャンパス ギャラリー・オーブ

26 SAT	
12:30-13:00	受付
13:30-13:40	あいさつ
13:40-13:50	オリエンテーション
13:50-16:50	クロストーク
16:50-17:00	休憩
17:00-17:30	展示(ポスター)発表
17:30-19:30	交流会

クロストーク	
テーマ	「こども」から考えるケアとアート —大震災を経て

新たないのちの誕生としてのこどもは、希望として語られることがあります。それは、人に未来へ向かう意識と覚悟を与えるものにもなります。では、私たちはこれからの暮らしや生き方をどのようにつくっていくことができるのでしょうか。そして、そこでケアとアートはどのようなものとしてあるのでしょうか。「『こども』から」という視点で専門領域を越え、現状の理解を深め、議論します。

登壇者	菅野浪男(羽山の森美術館運営委員、元酪農家) 小林傳司(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授) 坂上 香(映像作家、NPO法人out of frame代表) 島田 誠(ギャラリー島田代表、公益財団法人神戸文化支援基金理事長) 関口怜子(ハート&アート空間Bel代表) 西村高宏(東北文化学園大学医療福祉学部准教授) 原坂一郎(こどもコンサルタント) 松下弓月(福生山宝善院副住職、インターネット寺院「彼岸寺」編集長) 目黒 実(九州大学特任教授、京都造形芸術大学客員教授) 横濱千尋(京都造形芸術大学映画学科俳優コース四回生)
進行	本間直樹(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)

大きな出来事に直面したとき、私たちはこれまでの価値観やありかたの見直しを余儀なくなされます。現在の状況を捉え、新たな社会をつくりだそうとしていくとき、これからの担い手となるこどもの存在は欠かせません。

こどもには、未来がつまっている。そういうとき、私たちがそこにみているのは、初心への気づきであり、新たな知識をぐんぐんと吸収し、学んでいく柔軟性であり、前提にとらわれない態度かもしれ

27 SUN	
9:00-9:30	受付
9:30-10:00	総会
10:10-12:10	プレゼンテーション (応募者による研究発表、実践報告、ワークショップ)
12:10-13:30	休憩
13:30-15:30	分科会A-D (選択制：A-Dのなかからお選びください)
15:45-17:15	ワールドカフェ
17:15	終了

分科会(選択制)	
A	“その人”に寄り添うということ —被災地でのアート活動について

被災地でのアート活動について仙台でこどもに寄り添う活動を続けるハート&アート空間Bel代表の関口怜子さん、被災地へ手描きの絵はがきを届ける「ひかりはがき」プロジェクトなどを行うやさしい美術プロジェクトディレクターの高橋伸行さんの話から被災地でのアート活動、アートを通じた支援について考えます。

発表者	関口怜子(ハート&アート空間Bel代表) 高橋伸行(やさしい美術プロジェクトディレクター、名古屋造形大学准教授)
聞き手	森口ゆたか(美術家、NPO法人アーツプロジェクト代表)

C 人はなぜ表現するのか？—内なるこどもからアートとケアを考える

ゼロ歳児のなぐり描きにはじまる表出行為は、生まれながらに自発的な遊びや関わり表現として見るができます。それは、アートのはじまりと、人間の形成を巡ってのコミュニケーションについて考える際に大きな示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。アートとケアが共有するコミュニケーションの視座とはどのようなものなのか。こどもの視点から捉え返し、考えます。

発表者	加藤ゆみ(NPO法人こどもアート代表) 三ツ木紀英(アートプランナー、NPO法人芸術資源開発機構理事) 片岡祐介(打楽器奏者、作曲家)
ファシリテーター	水野哲雄(京都造形芸術大学芸術学部こども芸術学科教授)

ません。それは、こどもだけでなく、大人と呼ばれる人のなかにもあってほしいものでしょう。そしてケアやアートはそのような世界のはじまりに届く視線をときに必要とし、ときに引きだすものなのではないでしょうか。

本大会では、一人ひとりのなかにあるこのような「こども」をキーワードに、ケアやアートについて考えます。みなさまのご参加をお待ちしています。

展示(ポスター)発表/プレゼンテーション	
発表者募集：募集要項をアートミーツケア学会ウェブサイトからダウンロードし、必要事項をご記入のうえ事前にエントリーしてください。	
エントリー先	http://popo.or.jp/artmeetscare/
エントリー期日	10月22日(土)

B 震災と原発についてのこどもたちとの対話プロジェクト報告	
発表者	高橋 綾(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター招聘教員) 辻 明典(大阪大学大学院文学研究科博士前期課程) 本間直樹(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)

私たちは学校や美術館でこどもたちと対話し、ともに考える「こどもの哲学」の活動を数年間つづけています。この分科会では、今回の震災と原発事故を機に新たに着手した、地域を越えたこどもとの/こどもの対話プロジェクトについて報告するとともに、こどもと対話することの意義について提題、議論します。

発表者	高橋 綾(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター招聘教員) 辻 明典(大阪大学大学院文学研究科博士前期課程) 本間直樹(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)
-----	---

D 日本ボランティア学会ジョイントセッション いのちの萌える場所へ—原発危機から、こども・動物・自然を考える

山の斜面で牧場を開き、絵を描き、こどもを育ててきた人。自給自足した土地から避難し、フラダンスを通じ平和を考える人。国内外で馬と一緒にケアに取り組む人。そんなこども・動物・自然と一緒に生きてきた身体が、原発事故の中で何を感じ、何をあらわそうとしているのか？ 福島に暮らしてきた人、福島に支援に入っている人と語り、もう一度いのちの原点へ立ち返ります。

発表者	菅野浪男(羽山の森美術館運営委員、元酪農家) 大塚 愛(子ども未来・愛ネットワーク代表) 寄田勝彦(ホース・インテリプリアー、NPO法人インフォメーションセンター代表理事)
-----	--

コメンテーター	坂上 香(映像作家、NPO法人out of frame代表)
コーディネーター	原田麻以(NPO法人こえとことばとこころの部屋東北出張所長、 日本ボランティア学会運営委員)

※やむを得ない事情によりプログラムおよび登壇者に変更が生じる場合があります。ご了承ください。